

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4571500406		
法人名	医療法人耕和会		
事業所名	グループホーム太陽の丘		
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字木原5886-4 (電話) 0985-85-8668		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価確定日	平成20年9月5日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤22人, 非常勤1人,	常勤換算22.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,430 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	430 円
	夕食	430 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	26名	男性	2名	女性	24名
要介護1	5	要介護2	9		
要介護3	6	要介護4	4		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 86.27歳	最低	60歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	迫田病院、さきやま歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3ユニットのグループホームで、周りを緑に囲まれた広い敷地にある。玄関は各館、それぞれに風情のある和風作りで、家族が来訪しやすいように各ユニットの玄関に職員の顔写真が掲示してあり、親しみを感じさせる配慮がある。利用者の体調が悪い時など、併設の老人保健施設の医師に直ぐ相談できるので、利用者・家族は安心である。事業所は、地域のボランティア、実習生の受け入れや町の傾聴ボランティアの養成講師として活躍するなど、地域に開かれた事業所として積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価については、結果を基に職員全員で改善課題についての話し合いや改善計画の作成はされず、評価を日々のケアに生かすまでには至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価を行い、サービスの質の向上に努めてはいるが、具体的な改善計画等について、職員全員での話し合いは十分にはできていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、事業所の取り組み状況や前回の外部評価の結果を報告している。参加メンバーから率直な意見をもらい、それをサービスの向上に生かすように取り組んでいる。又、災害対策については、地域の人々の協力が得られるように相談している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時には、声をかけ利用者の健康状態や暮らしぶりなどを報告している。家族会を年3回開催している。家族会では、職員は席をはずし、家族同士で話し合う時間を設けている。出された意見等はサービスに反映させるよう取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りなど行事や親睦会には積極的に参加するようにしている。事業所に近隣の子ども会からの来訪があったり、事業所の祭りに地域の人々を招待している。近隣の散歩や地元野菜直販所に買い物に行き、あいさつやことばを交わすなど、日常的に地元の人々と交流することに努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活の継続を支える事業所独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や居間に理念が掲げてあり、職員は理念の実践に向けて取り組んでいる。	○	理念について、日々職員間で話し合いや確認の機会を持ち、全ての職員に意識づけがされるよう更なる取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や親睦会には利用者と共に積極的に参加している。また、事業所に近隣の子ども会からの来訪があったり、事業所の祭りに地域の人々を招待するなど交流がある。近隣への散歩や地元野菜直販所への買い物などではあいさつや言葉を交わしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価を行い、サービスの質の向上に努めてはいるが、前回の外部評価で見出された課題について、具体的な改善計画など全職員を交えての話し合いは十分にはできなかった。	○	前回の評価結果を踏まえて改善計画シートを作成し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための取り組みをしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告や前回の外部評価の結果を報告し、参加メンバーから意見、要望を受け、それらをサービスの質の向上に生かすよう取り組んでいる。又、災害対策については、地域の人々の協力が得られるように相談している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当窓口や包括支援センター等と電話連絡や定期的な訪問を行うなど行政との関係づくりを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には声をかけ、利用者の健康状態や暮らしぶりなどを報告している。金銭管理は出納帳により確認してもらいサインを頂いている。職員の異動については、顔写真入りで掲示して紹介すると共に個別に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の棚に気づき箱を設置している。家族会を年3回開催している。家族会では職員は席をはずして、家族同士で話し合う時間を設けている。出された意見等はサービスに反映させていくよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設の老人保健施設や各ユニット間での定期異動はあるものの、できるだけ利用者や職員とのなじみの関係を壊さないように、ユニット間の職員が行き来をしたり、職員の顔写真を掲示して利用者や家族に紹介をするなど利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員育成の重要性を認識し、事業所内外の研修を受ける機会を確保するための年間計画を作成し、職員各自に応じた研修が受けられるように取り組んでいる。	○	パート職員もチームの一員として研修に参加する機会の確保や研修内容を全職員が共有できるように工夫するなど更なる取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での交換研修に参加したり、他グループホームへの見学等同業者との交流に積極的に取り組み、サービスの質の向上に生かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が利用者の自宅を訪問したり、事業所に来てもらい食事を一緒にしてもらうなど、本人や家族が安心して利用できるように支援している。又、本人が落ち着くまで家族の宿泊も支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごしながらか戦争体験を聴き、平和の大切さや昔のことば、童謡を聞きながら生活文化の大事さを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聴き、本人本位の介護計画を作っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3か月・6か月ごとの定期的な見直しや利用者の状態に応じた随時の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	在宅の認知症高齢者がショートステイを利用できる体制は整えている。又、墓参りなどの外出や外泊など柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者の掛かりつけ医での受診を支援している。利用者に急変が見られた時は、協力医で対応できるよう家族の同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、契約書にうたわれてはいるが、職員全員で方針を共有するには至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、全職員が方針を共有できるよう、積極的な取り組みをしてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録などは個人情報の漏えい防止に努めている。訪問当日は利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけは見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重して、食事、散歩、レクリエーションなど個別性のある支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配ぜん、後片づけなど利用者の力を生かしながら職員と一緒にしている。介助をさりげなく行いながら、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しい雰囲気です。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴曜日や時間帯を決めてはいるが、利用者の希望に合わせた柔軟な支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を生かして菜園作りや洗濯物たたみなど職員と一緒にしている。新聞を読んでおられる方、小鳥に声かけされている方など一人ひとりに合った支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の希望に沿って散歩や買い物など戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日常的に、日中は玄関の鍵をかけない暮らしを当然のこととしてとらえており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○	鍵をかけることの異常性と個々の利用者にもたらす心理的な不安・閉塞感等について、全職員の認識が得られるよう更なる教育を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年3回、職員と利用者が一緒に避難訓練を行っている。地域の協力体制については、自治会や運営推進会議で協力を呼び掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、一日を通じた食事量・バランス・飲水量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ろうか、居間、台所など不快な音も無く、換気や採光も利用者にとって居心地よく過ごせるよう配慮がされている。	○	清掃が行き届いていないユニットもあったことから、生活の中心である居室や共用空間の清潔保持に努めてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	○	本人が居心地良く過ごせるように、使い慣れたなじみのものを置くなど、本人や家族への更なる働きかけを期待したい。

※  は、重点項目。